

令和7年7月15日

一般社団法人 茨城県経営者協会 御中

国立大学法人筑波大学
ソーシャルインパクト推進室

「大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業」へのご協力をお願い

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

本学は令和6年度より文部科学省「大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業」に採択され、本学の強みを活かした多文化共修プログラムを軸に、地域社会との連携を通じた日本人学生の国際化や留学生と地域定着を促進する取組を進めております。

つきましては、会員企業様への本事業のご紹介と協力企業募集にご協力を賜りたく存じます。詳細につきまして下記をご確認いただけると幸いです。何卒よろしくお願いいたします。

記

○ご紹介方法の例

- ・貴協会ウェブサイトやメールマガジン等でのご周知
- ・貴協会定時総会や各支部役員会等でのご説明 等

○企業様へのご協力依頼内容について

- ・多文化共修活動を実施するパートナーとして企業の抱える課題や社会課題に対する取組事例等をご提供いただき、学生への課題説明等にご協力いただけると幸いです。
- ・企業様と一緒に共修活動を行う中で、日本人学生と留学生の実際の様子をご覧いただき、その後のインターンシップ等につなげる、あるいは学生が地元企業の取組や魅力に気付くきっかけを創出することを見込んでおります。

本事業の詳細につきましては別添の資料をご参照ください。

ご不明点やご意見等がございましたら、下記担当までお気軽にご連絡ください。どうぞよろしくお願いいたします。

以上

筑波大学 教育推進部 教育推進課国際共修担当
／ソーシャルインパクト推進室（担当：八木）

TEL：029-853-2237

Email：social.impact@un.tsukuba.ac.jp

令和6年度大学教育再生戦略推進費
大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業

GASSHUKU(合宿)とDOJO(道場)による グローバルスタートアップ人材育成



筑波大学ソーシャルインパクト推進室

令和7年7月14日

大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業

令和6年度予算額

18億円
(新規)



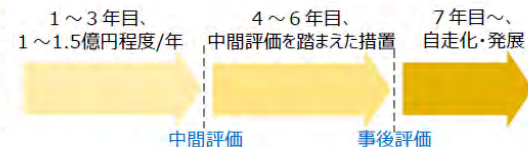
背景・概要

- 大学の教育・研究活動を支えるのは、優れた人材。国際的な人材獲得競争が激化する中で、大学は研究機関としてだけでなく、教育機関として多様性を活かしたイノベティブな人材育成を行うとともに、我が国の質の高い大学教育を海外でも展開してその認知度を高め、優秀な人材を育成・獲得していくための体制を強化していくことが急務
- 留学生30万人計画の達成の過程を通じ、英語による授業科目や英語のみで学位を取得できるコースも増加し、一定の国際化が図られている一方、外国人留学生と日本人学生が深く関わり相互研鑽に励むための環境が十分に整っていない、出口に着目した受入れが不十分等の課題も顕在化

事業実施期間

令和6年度～令和11年度（予定）

事業実施のイメージ（予算措置は6年）



教育未来創造会議第二次提言に掲げられた目標の実現に向け、国内外での国際的な共修のための体制の構築等を通じ、更なる大学の国際化の推進、日本人留学生の派遣、優秀な外国人留学生の受入れ・定着それぞれが相互に作用する好循環を創出

■ 教育未来創造会議第二次提言「未来を創造する若者の留学促進イニシアチブ＜J-MIRAI＞」（令和5年4月27日）

➢ 今後の方向性

多様な文化的背景に基づく価値観を持った者が集い、理解し合う場が創出される教育研究環境、高度外国人材が安心して来日できる子供の教育環境の実現を通じて教育の国際化を進める

➢ 具体的方策

教育の国際化の推進
・徹底した国際化やグローバル人材育成に大学が継続的に取り組むような環境整備

➢ 2033年までの目標

- 日本人学生の派遣
 - ✓ 学位取得等を目的とする長期留学者の数
6.2万人→**15万人**
 - ✓ 協定などに基づく中短期的の留学者数
11.3万人→**23万人**

● 外国人留学生の受入れ・定着

- ✓ 外国人留学生の数
31.2万人→**38万人**
- ✓ 留学生の卒業後の国内就職率
48%→**60%**（国内進学者を除く）

事業内容

I. 地域等連携型

①国際共修の全学的な実施体制の構築、②出口に着目した留学生受入れの質の向上、③地域社会と連携した活動 等を実施 ※なお、予算措置対象は主に①のみを想定

- 件数・単価：10件程度×約100～150百万円
- 交付先：国公立大学（連携機関として短期大学・高等専門学校含む）
- 地域社会との連携による国際的な共修科目を体系的に組み入れ、外国人留学生が我が国への理解・共感を深めるとともに、日本人学生が日常的に国際経験を得るようなカリキュラムの国際化を図る
- 自治体や企業等との有機的な連携による定着支援や地域での国際交流活動を通じ、カリキュラム外も含めたキャンパスライフ全般において外国人留学生が日本社会に溶け込み、共生していく環境を構築する

外国人留学生の受入れ増大、大学を核とした共生社会の実現

II. 海外展開型

R6 筑波大学 採択

既存の海外大学内外在外拠点の活用等により、学生を送り出せる環境の整備や、現地での共修環境の構築を実施

- 件数・単価：3件程度×約150百万円
- 交付先：国公立大学
- 海外で教育活動を展開し、現地大学の学生との共修等を通じたグローバルな学びや国際的ネットワークへの参画を実現を図る
- カリキュラムの一環として、学部レベルから大学院に至る各段階に応じたグローバル人材・価値創造人材育成に資するプログラムを構築し、日本人学生の送り出しを行う

日本人学生の留学促進、海外での日本の大学のプレゼンス向上へ

◎採択校一覧

合計13大学

タイプⅠ 10大学

タイプⅡ 3大学

●タイプⅠ：地域等連携型

計10件

機関番号	設置形態	申請大学名 (代表申請大学)	プログラム名	申請単位 (補助対象)	連携してプログラムを実施する機関
11301	国立	東北大学	共創型国際共修を核とする包括的国際化の新展開と社会価値創造	単独	
12401	国立	埼玉大学	「地域共創ーダイバーシティ課題解決ーレジリエント社会研究」の三位一体による実践的な多文化共生教育の全学展開	単独	
13102	国立	長岡技術科学大学	ものづくりと地域社会に実容をもたらすグローバル技術共修教育モデル構築とR&D人材育成	単独	
13301	国立	金沢大学	多層型多文化共修プログラムによる価値創造人材の育成とそれを育むGlobal Innovation Campus の実現	単独	
13904	国立	豊橋技術科学大学	グローバルテック・イノベーターを育む多文化共修キャンパスの創出	単独	
14401	国立	大阪大学	「地域に生き世界に伸びる」社会価値創出を目指す多文化『共育』事業	単独	
15301	国立	岡山大学	統合エンゲージメント戦略による「地域と地球の未来を共創するWell-being実践人」の育成	単独	
15401	国立	広島大学	Town & Gown構想と連携した課題探究型経験学習による多文化共修教育システムの構築	単独	
34416	私立	関西大学	大阪・チェンジメーカーズ：課題主導の社会的インパクト共創教育プロジェクト	連携あり	大阪公立大学
37503	私立	立命館アジア太平洋大学	Leap Beyond Global：組織・地域・分野を超えたグローバルな価値創出	連携あり	九州工業大学

●タイプⅡ：海外展開型

計3件

機関番号	設置形態	申請大学名 (代表申請大学)	プログラム名	申請単位 (補助対象)	連携してプログラムを実施する機関
10101	国立	北海道大学	ウェルビーイング社会の実現に貢献するグローバル人材育成 (HOKUDAI 国際共創の構築)	単独	
12102	国立	筑波大学	GASSHUKU (合宿) とDOJO (道場) によるグローバルスタートアップ人材育成	単独	グルノーブル・アルプ大学 (フランス)、国立台湾大学 (台湾)、台湾成功大学 (台湾)
13901	国立	名古屋大学	グローバル・マルチキャンパスでの多文化共修を通じた未来社会の創造	単独	ノースカロライナ州立大学 (米国)、シンガポール国立大学 (シンガポール)、フライブルク大学 (ドイツ)、エディンバラ大学 (英国)

事業の背景・目的

本事業における「多文化共修」:

大学等が教育研究活動を行う**国内外の地域における課題について**、その抽出から分析、解決策の検討及び提案、社会実装に至るまでの過程において、**日本人学生と外国人学生がそれぞれの文化的多様性を活かし共に学修**すること



MEXT

MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

大学の理念等を踏まえた 本プログラムの位置付け及び 大学の国際化に向けた 実施基盤

GASSHUKU（合宿）と DOJO（道場）による グローバルスタートアップ 人材育成

2024年

- 社会を変革する行動力と実装力の涵養

2022年
指定国立大学法人

未来社会をデザインできる新たな「知」を創出する総合大学を目指して
国境や組織の壁を超える人材育成

- デザイン思考教育の全学展開と全学的チュートリアル教育による人材育成
- 先進的な「高度」学際型教育の実現
- 国際社会で活躍する優秀な人材の育成
- 筑波大学の教育システムの輸出・国際展開
- アントレプレナーシップ教育の拡充とベンチャーエコシステムの確立

2014年
スーパーグローバル大学
創成支援事業(SGU)

国際的互換性のある教育と世界トップレベルの研究を行う戦略として

世界中の資源を積極的に活用した教育研究活動の推進

- Campus-in-Campus (CiC) 構想の推進(10 力国・地域の13 校)
- 科目ジュークボックス(大学の壁を超えて授業をコードシェアする独自のシステム)留学促進
- 2つの国際連携専攻(ジョイントディグリープログラム)と15 のダブルディグリープログラムによる協働教育
- 海外教育研究ユニットの招致による研究力強化
- Campus-with-Campus (CwC) 協定(CiC の国内版)国際基督教大学(ICU)及びお茶の水女子大学と締結

2009年
大学の国際化のためのネット
ワーク形成推進事業(G30)

「世界との共生」と「国際性の日常化」をスローガンに

外国人学生の受入と日本人学生の海外派遣を大幅に拡大

- ➡ 広範な分野において英語プログラムを整備(2024年現在、学士課程7コース、修士・博士課程70コース)
- ➡ グローバル人材育成事業:日本人学生の海外派遣を強化
- ➡ 6つの大学の世界展開力強化事業(日独韓、ASEAN、ロシア・中央アジア、中南米、アジア、北米):特定地域との双方向の交流を推進
- ➡ 2つの日本留学海外拠点連携推進事業(南米、ロシア・CIS):リクルーティング機能を強化
- ➡ 2つの日本留学促進のための海外ネットワーク機能強化事業(南米、CIS):リクルーティング機能、日本留学サポート体制を強化

1973年
開学

国際性と学際性を両輪として社会に「開かれた大学」を理念として

申請にあたり最重要に考えたこと

「グローバル スタートアップ人材」の育成

■ このプログラムで育成される人材像

- インクルーシブかつサステイナブルなスマート社会の実現に向けた未来デザインができ、国内外を問わずその地での社会変革に向けた行動力や実装力によって事業を開始し推進できる人材

■ このプログラムで涵養される資質・能力

- 様々な文化を背景にする多様な人々への優れた共感性を持ち協業できる能力
- 多分野にわたる広範な知識とそれらを諸問題に適用できる能力
- 創造的デザイン思考ができ、立案から実装までを受け持てる幅広い実行能力やリーダーシップ

■ このプログラムに参加した学生が、国内外での起業や国際機関等での活躍により、持てる能力で社会還元できること（JUMP）を目指す

- そのため、学士課程入学時から、学生の多文化共修への興味とインセンティブを誘発できる環境を整えることを重要課題とし、RUN-UP → HOP → STEP → JUMP の各段階に資する正課・正課外の活動を設計し計画した

プログラム計画の具体的な内容

- 海外留学を促すため、**段階に分けた学修プログラム**を全学生対象に提供
- 学生の海外経験への心理的な障壁を下げながら多くの学生を海外に派遣
- 帰国した学生による後輩学生への興味喚起までを含む好循環を創出



課題：留学への関心に偏りがある。
方策：共修基盤科目
効果：入学直後の学士課程学生が海外経験の有用性に気付く。

教員・職員の配置

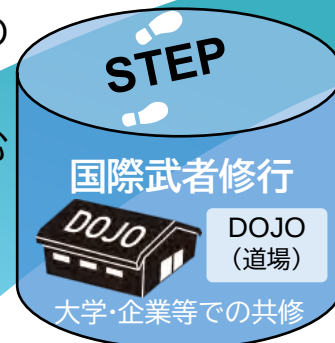


課題：海外留学への心理的障壁がある。
方策：GASSHUKU
効果：学内学生宿舎等を活用して外国人学生等と協業体験を持ち、外国語でのコミュニケーションに自信がつく。

学内科目の整備

正課外の主な取組

- つくばアクションプロジェクト (T-ACT)
- サマープログラム
- 学生アンバサダー制度



課題：強力なサポート体制の構築が必要。
方策：DOJO
効果：GASSHUKU経験をもとに実際に海外で多文化共修に取り組むことにより、日本的なアプローチや自らの持つ強みを確認し、課題解決のスキルアップができる。

国内外の機関との連携強化を実施



課題：中長期留学への心理的障壁がある。
方策：フォローアッププログラム
効果：DOJOでの経験を生かした起業や長期の海外滞在に自ら挑戦し、次世代にも挑戦を促す伝道師の役割を担うことができる。

GASSHUKU (合宿)

海外パートナー大学から受け入れた学生が日本人学生と**学内の宿舎**に泊まり込み、**未来社会デザイン棟**で自治体や企業の社会課題を解決する場

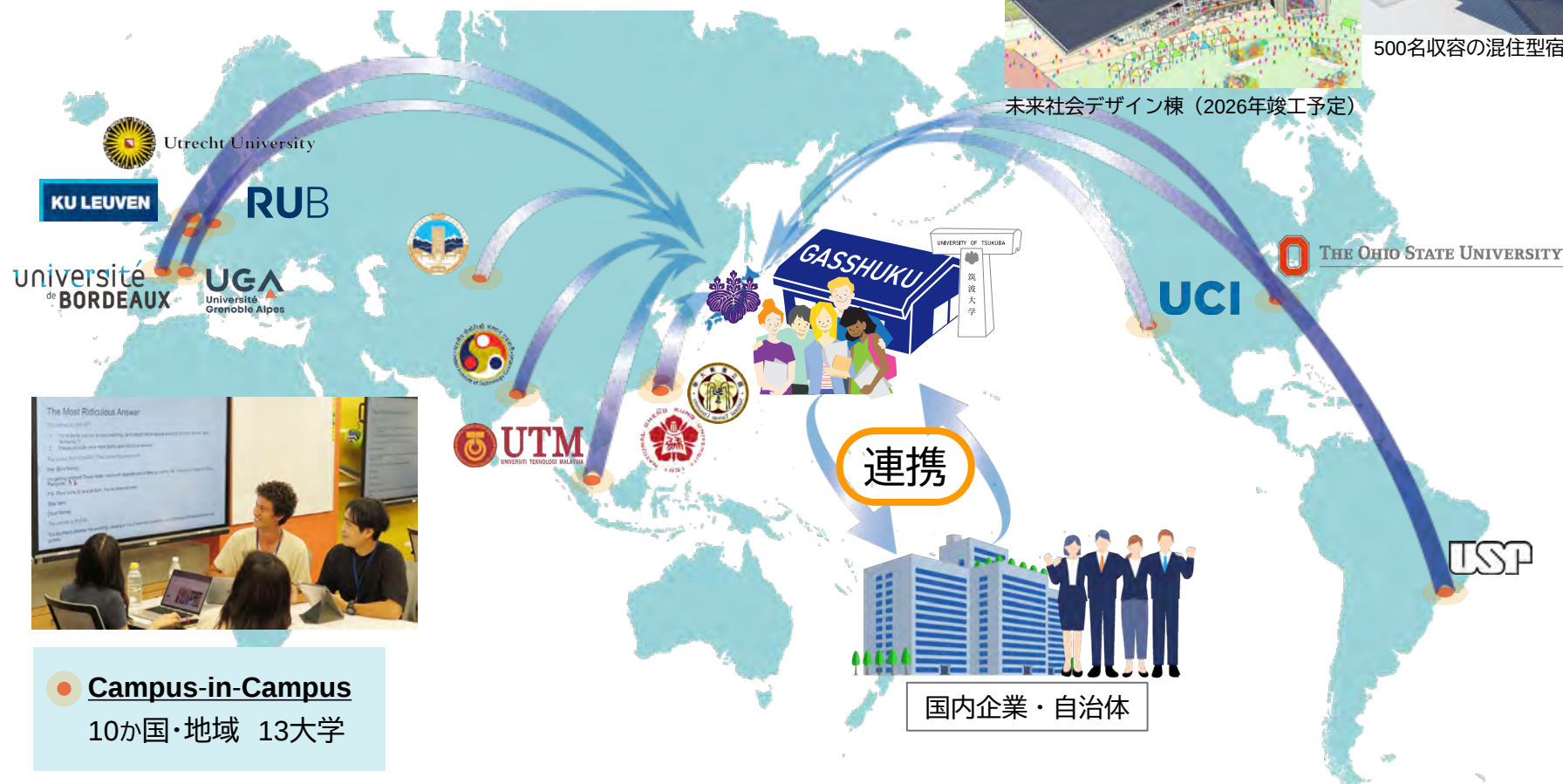
外国人学生と日本人学生、企業担当者が対話し、相互理解を深める。
企業等と連携したインターンシップも行う。



500名収容の混住型宿舎



未来社会デザイン棟（2026年竣工予定）



DOJO (道場)

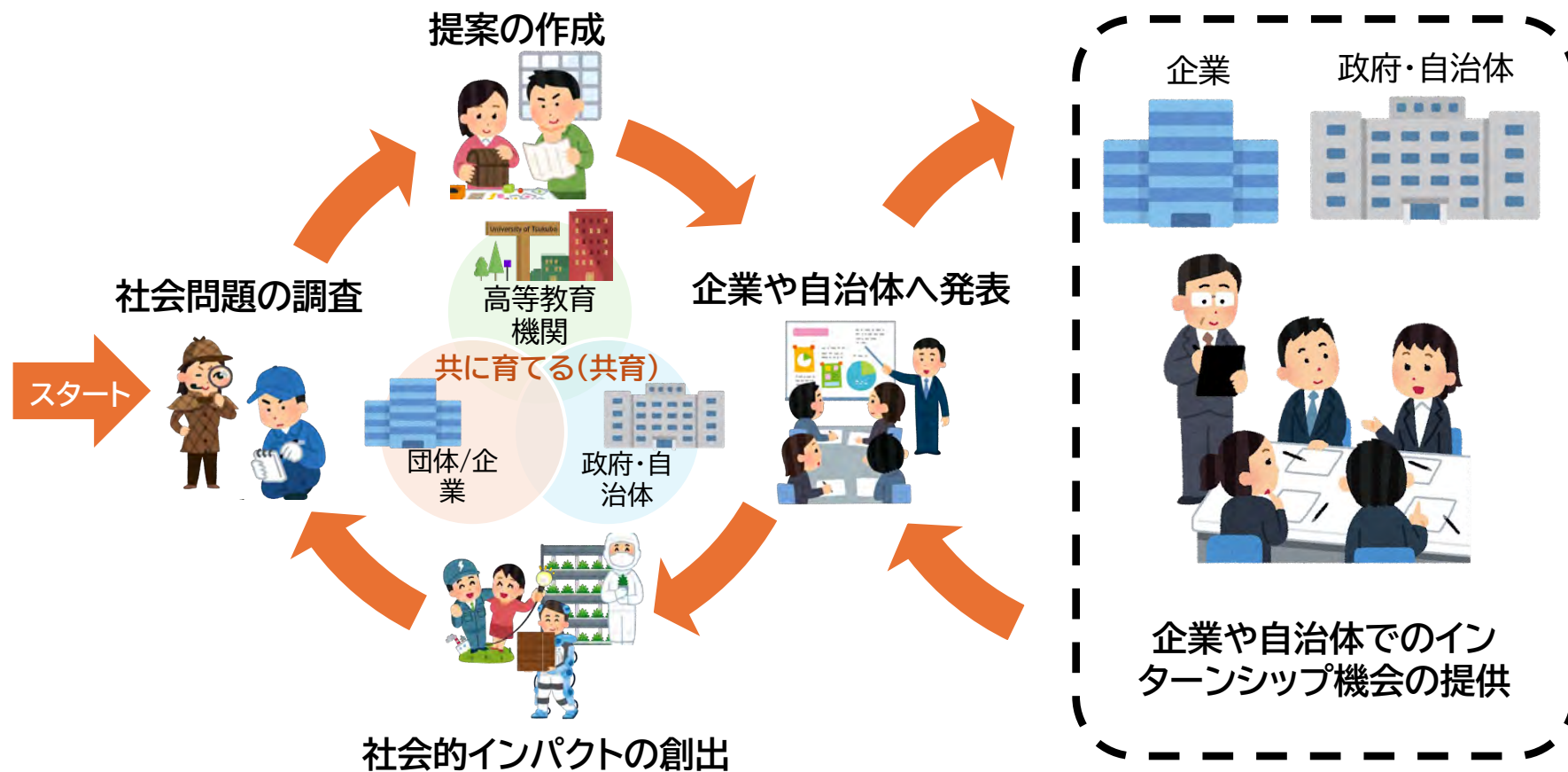
日本人学生がCiC等の海外パートナー大学で現地学生とともに現地の自治体や企業の社会課題の解決に取り組む場

- 社会課題解決を目指すハッカソンイベントなどの短期研修プログラムを開催
- 単位付与やマイクロレデンシャルの発行を行う



DOJO, GASSHUKU
における多文化共修

日本人学生と外国人学生の協働による問題解決型学習 (Problem-based Learning)



	筑波大学	提携大学	パートナー企業・自治体等
全般	● プロジェクトテーマの選定 ● プログラム内容の共同開発		
	● 将来の提携先とのネットワーキング(関係構築) ● 協力教職員の確保 ● 学生への情報発信		● リソースパーソン確保: 専門家や経験豊富な人物が講義を行い、テーマに関する知識や実践的なアドバイスを提供 ● 資金提供または支援: プロジェクトや活動に対する資金提供やその他支援を通じて、活動の実施をサポート
	● 学生寮の手配 ● 地方自治体や企業との連携	● 学生、ティーチングアシスタント(TA)、教員および職員の派遣 ● 運営面での調整	● プログラムサポート(訪問先に係る助言・調整等)
	● 学生、TA、教員および職員の派遣 ● 運営面での調整	● プログラム用の施設確保 ● 地方自治体や企業との連携 ● 現地TAの確保	● プログラムサポート(訪問先に係る助言・調整等)
協働任務	既存の支援制度の中から活用可能なものを模索 奨学金	社会課題に取り組む企業や、CSR活動を行っている連携先の発掘 スポンサー・パートナー	学生の負担軽減策を検討 学生の参加費

筑波大学での多文化共修事例



タイ 国際農業研修
2025年2月23日～3月2日

タイと日本が協力して地域課題の解決に取り組むための研修

- ・ オープンな課題設定
- ・ 未利用のバイオマス資源（例：熱帯植物の残渣）を、生活に役立つ形に変える実習
- ・ 本学学生30名、現地学生30名＋教員総勢60名以上が参加。
- ・ 協力機関は現地でのフィールドワークの機会を提供し、セミナーを実施。



筑波大学での多文化共修事例



フランス 建築演習
2024年9月16～27日

筑波大学CiC協定校のグルノーブル・アルプ大学／グルノーブル国立建築大学（UGA）と国立成功大学（台湾）の3校が共同で国際デザインワークショップを開催。

- ・ 1:1スケールの小規模建造物（庭園の休憩所や散策路）をデジタルデザインとデジタルファブリケーションで制作。
- ・ 学生と教員合わせて70人以上が参加。
- ・ 協力機関（博物館）は、施設利用費を負担。



筑波大学での多文化共修事例



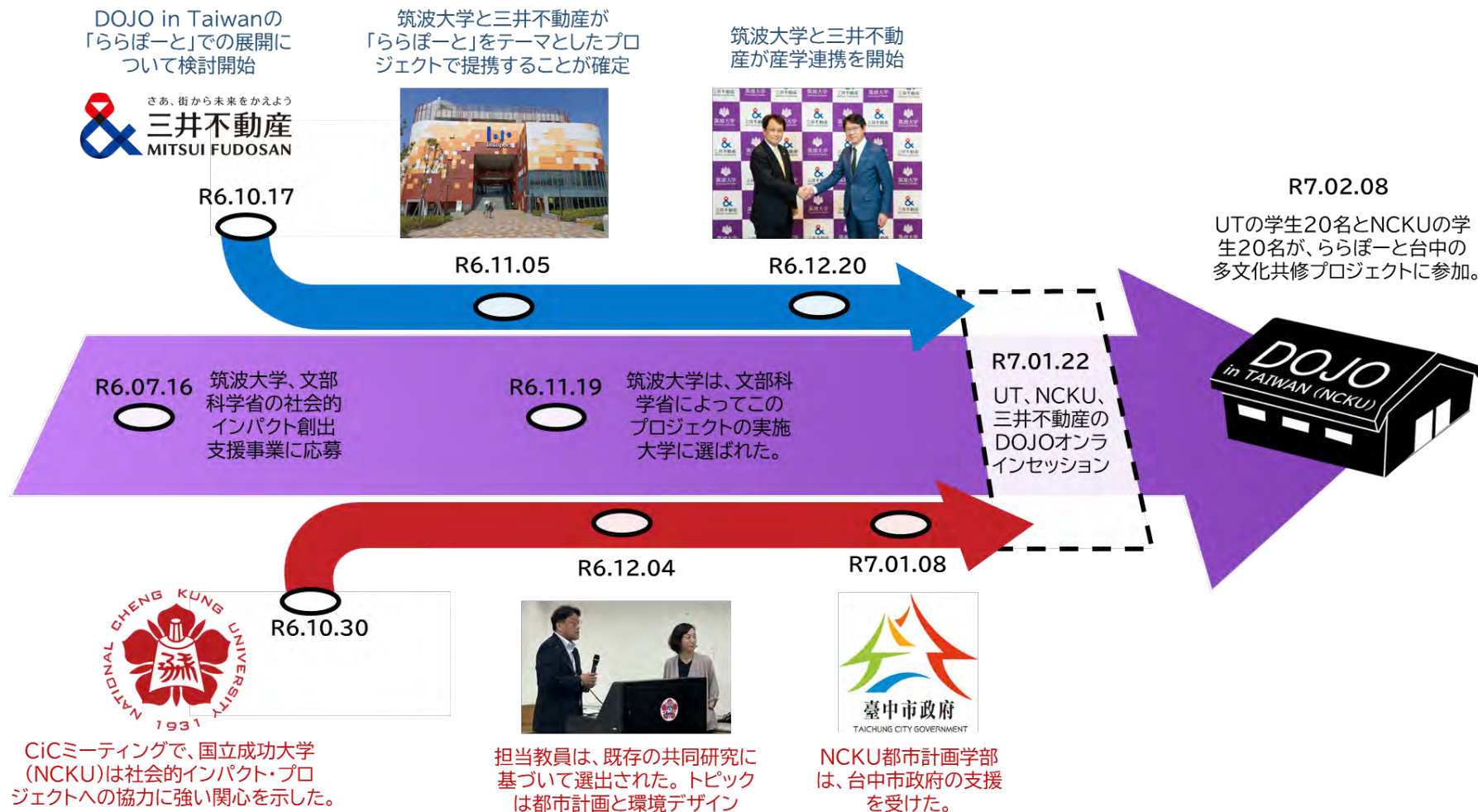
DOJO IN 台湾
2025年2月9～16日

筑波大学CiCパートナーとの共同開催： 国立成功大学
(NCKU)、三井不動産主催

- ・筑波大学と国立成功大学（NCKU）からそれぞれ**20名**の学生が混成チームを結成し、台湾のショッピング文化について調査を行いました。
- ・さまざまな関係者へのインタビューを経て、ららぽーと台中における持続可能なショッピングの実践を促進するための提案を作成しました。



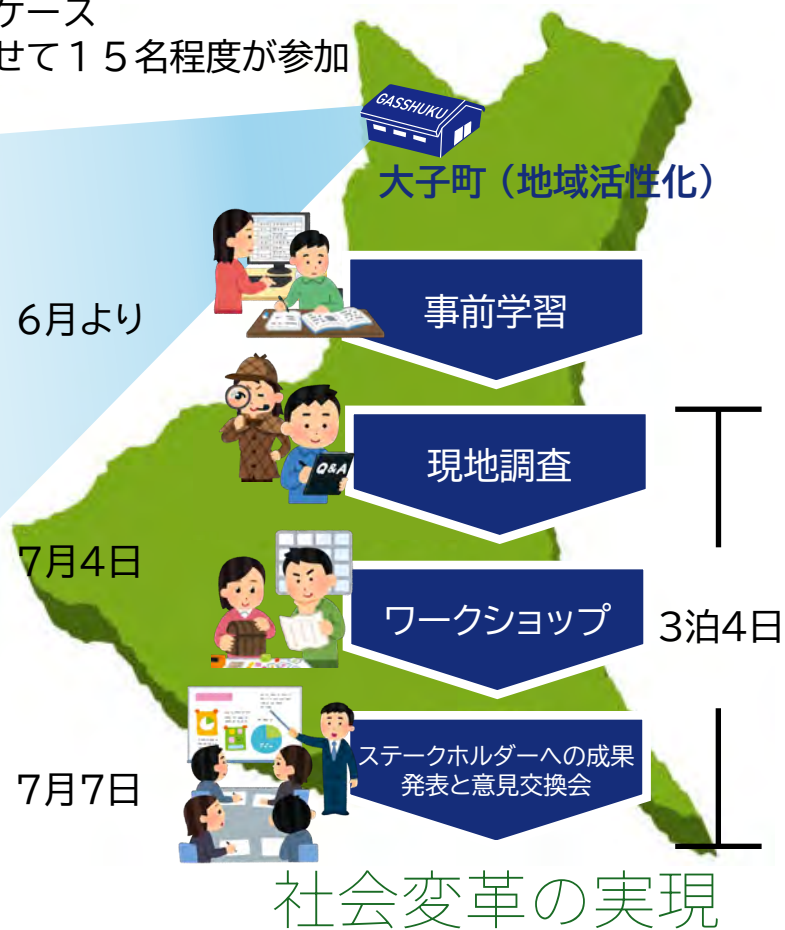
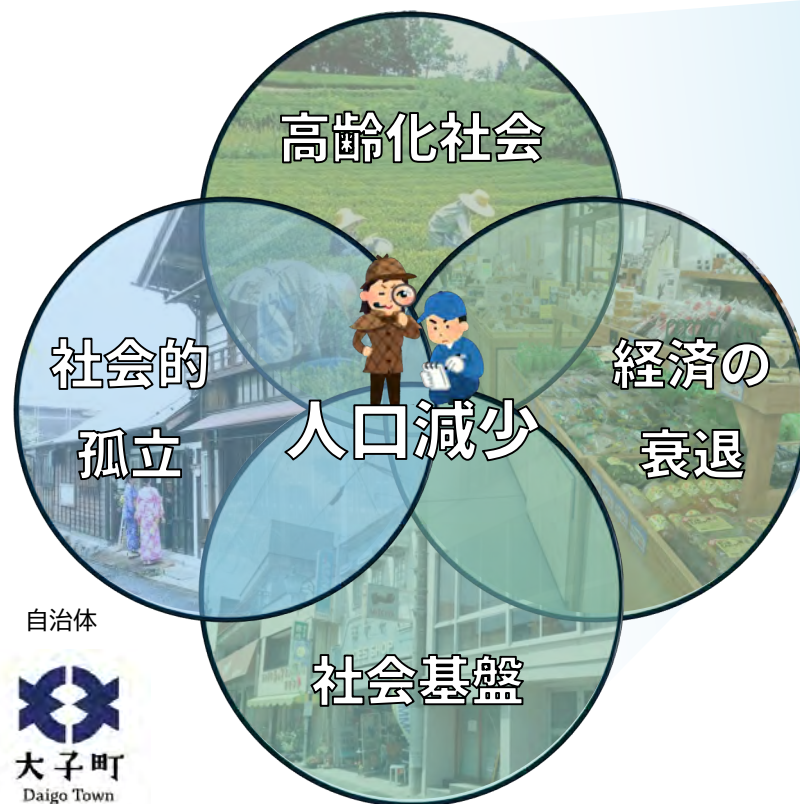
1. プロジェクトの背景(どのように始まったか)



GASSHUKU(合宿) 日本での泊まり込み合宿事例

大子町での自治体・企業を巻き込んだ事例

- ・日本がフィールドワークの場となるケース
- ・日本人学生・外国人学生・教員合わせて15名程度が参加
- ・次年度以降も継続予定



パートナー

企業

自治体



ご協力依頼内容

1 会員企業様への本学ソーシャルインパクト事業のご紹介※と、多文化共修活動にご協力いただける企業の募集

- 企業の課題、社会課題等のご提供
- 参加学生への課題説明及びご助言
- 企業の社会貢献活動への協働

※たとえば、総会等の場でご紹介させていただくなど

2 多文化共修を通じた、留学生の県内就職促進に向けた協働

- ✓ 多文化共修活動を地元企業様と一緒にいき、日本人と留学生の共修の実際の様子をご覧いただく事で、その後のインターンシップやリクルートにつながる
- ✓ 学生が地元企業の取組や魅力に気付くきっかけを創出できる。
- ✓ 日本人だけではなく留学生が参加することで、新しい視点で課題解決に向けた検討を行うことができる。

3 プログラム実施に係る学生支援

- 施設見学や宿泊施設のご提供
- 移動用バスのご提供 等